

鹿島支部「講師派遣事業」報告



令和元年十月七日(日)午前十時三十分より、中能登中学校一階ランチルームで、講師派遣事業が開催されました。鹿島支部「平野支部長」より、開会の挨拶と講師紹介があり、金沢星稜大学教授大森重宜氏(ロス五輪出場)により、「自己実現のために」をテーマに、中能登中学二年生百五十に向けての講演がありました。

◇研究テーマ

「なぜ日本人は神輿を担ぐのか」というテーマで研究を進めています。人類学をやっています。自分が命を賭け、魂を傾けてやっているスポーツというのは、どういう意味あるのか、どんな機能があるのか、とかの不思議を解き明かしたいと考えたからです。

◇ポストゴールデンエイジ

最も能力が向上する時期をゴールデンエイジと呼び、中学校二年生のおかれている年齢をポストゴールデンエイジと呼びます。中学校二年生の皆さんは物事を獲得できる最後のチャンスです。脳が柔らかい。物事を柔軟に考えることができるか。ねずみや猫や犬や猿は成長して行く過程で、脳がプログラムされていていろんな能力を獲得できることになっています。

ところが人間は、自分自身で何回も何回も反復することによっていろんなことを獲得できるようになっていきます。人間の行動は脳が命令します。その脳が反復でるようになっていくのが重要です。

能力を獲得できるには「反復できる脳になつていくか」。そして、「意欲を持つて反復できているか」が、人間にとつて実は大事です。嫌がらずに楽しみながら一生懸命やって獲得できる最後の時代の中に君たちはいるのです。高校生になつたらもう手遅れです。急激に脳の発達性が低下します。中学二年生が最後のチャンスなのです。合理的とは少ない回数で何かをできることではなく、どれだけ多く反復できるかということです。それも嫌がらずにです。

◇自分のやりたいことを見つける

「一日インターネットやパソコンをしますか」という問いに、たくさんすればするほど学力が低いという結果が出ています。インターネットやゲームをたくさんやっている人は、本当に自分がやりたいことを見つけていない人です。自分がやりたいことを見つけて集中できているかどうか重要なことです。

学力と体力、道徳心には相関関係があることがわかっています。また、自分に満足している人ほど将来の希望があります。自尊心の高い人、自己肯定感の強い人、自分ができると思う人ほど学力が高くて運動能力が高いことがわかりました。自分自身はやれると思う人ほどいろんなことができる。自分自身で明るく思える

かどうかというものは、自分に自信を持てるかどうかというのは、生活習慣です。もつとと言うと、どれだけ寝ているか、何時に起きていくか、何時に寝ているか。そんなことが関わってきます。今のうちに前向きに意欲的に生きられる自分を作り上げるのが、今の君たちに求められている一番の課題です。その最後のチャンスが君たち中学二年生です。

◇二年生に向けて

第二次性徴の皆さんは、高い意欲と問題解決能力を獲得するために。生活習慣を正してください。獲得できるそんな自分を作ってください。そんな自分になつてください。

終わりに、鹿島支部顧問の櫻井仁壽氏から、講演お礼と閉会の挨拶で、講演会を終了しました。講演を聴いた生徒達の姿勢を正した姿を眺め、講演の成功を感じました。

△編集後記▽

本会の講師派遣事業は、昨年に引き続き、中学生に向けての講演でした。講師は五輪選手であり、生徒達は羨望の眼差しで、講師の体験談や調査研究で得られた結果を基に語りかける講師の話し内容に感化されている様子でした。ポストゴールデンエイジ。その時期に獲得できる能力をその時期に獲得させる大人の関わりの大切さを学ばせて頂きました。鹿島支部の皆様有り難うございました。

教育のひろば石川 第一五三号

令和元年十二月十日発行

編集・発行 石川県教育振興会

金沢市尾山町一〇番五号 石川県文教会館内

TEL 〇七六(二三二)一三七〇

発行者 会長 澤野 等

印刷所 ヨシダ印刷株式会社

金沢市御影町一九番一号